

2019年1月15日

報道関係者各位

甲南大学

漫才台本自動生成機能を持つ「漫才ロボット」による 笑いの実証研究を医療現場で実施

このたび、甲南大学と大阪国際がんセンターと奈良先端科学技術大学院大学は、漫才ロボット（あいちゃんとゴン太）による笑いの実証研究を大阪国際がんセンターにて実施いたします。

本件は、これまで甲南大学にて研究開発を行ってきた漫才台本自動生成機能を持つ「漫才ロボット」が、がん患者を楽しませることが可能かを、ビデオ動画笑顔認識と自記式質問紙により調査します。

漫才ロボットはこれまで様々なマスメディアにて紹介され、2018年度はM-1グランプリの予選にも参戦しました。この漫才ロボット（あいちゃん、ゴン太の2体）は、与えられた「お題」に関連するWebニュースに基づき、インターネットから種々の知識を取得して人工知能の力で漫才台本を1、2分で自動生成し、漫才を演じることが可能です。本研究では、実際の医療現場において漫才ロボットが、身体的・精神的負担を強いられることも多いがん患者を笑わせることができるかを評価するとともに、現状の漫才ロボットの課題を明らかにし、実用化を視野に共同研究を進めます。

つきましては、下記の通りご案内申し上げます。取材につきご検討の程よろしくお願いいたします。

記

<日 時> 2019年1月21日（月）15:00から午後4時30分
2019年1月28日（月）15:00から午後4時30分
（両日ともに30分間×3回実施）

<場 所> 大阪国際がんセンター 1階 相談支援センター
（〒541-8567 大阪府大阪市中央区大手前3-1-69）

<参加団体> 大阪国際がんセンターがん対策センター
甲南大学知能情報学部
奈良先端科学技術大学院大学研究推進機構

<ご連絡事項>

- ・開催日当日、取材をご希望の報道関係者様は、事前に大阪国際がんセンター広報企画グループ（TEL：06-6945-1181 / 受付時間：平日9:00～17:30）へご連絡ください。
- ・テレビカメラの配置場所は、当日の先着順といたします。
- ・当日、会場では、音声ラインのご用意はできません。
- ・一般の方の取材は、受け付けておりません。

※漫才ロボット「あいちゃんとゴン太」につきましては、別紙をご確認ください。

《本件に関するお問い合わせ先》

[研究内容について]

甲南大学知能情報学部知能情報学科 灘本明代（教授）

Email: nadamoto@konan-u.ac.jp

[プレスリリースについて]

甲南学園広報部

〒658-8501 神戸市東灘区岡本 8-9-1

電話 078-435-2314 FAX 078-435-2546

Email: kouhou@adm.konan-u.ac.jp

【別紙資料1】

漫才ロボットあいちゃんとゴン太のご紹介

漫才ロボットは、その場でお題（キーワード）を与えると、インターネットからそのお題のニュース記事をピックアップして、そこから、さらにインターネットでそのニュースに関する様々な知識を取得しAI の力で漫才台本を自動生成し、2 体のロボットが漫才を演じます。

2 体のロボットは、ボケ担当のゴン太と、ツッコミ担当のあいちゃんによるロボット・コンビです。自動生成された漫才台本は、「つかみ」「本ネタ」「オチ」からなり、つかみは季節の挨拶をし、本ネタ部分は、言い間違いや過剰ボケ、ノリツッコミ、対立ボケや感情ボケ等が行われています。そして最後のオチでは、「なぞかけ」を自動生成します。

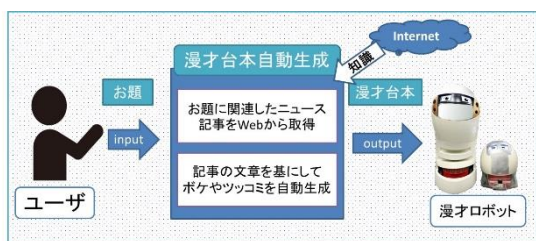
漫才ロボットの大きさはあいちゃんが 1m、ゴン太が 50cm のでこぼこコンビです。また、スマホを搭載した小型の漫才ロボットもあります。



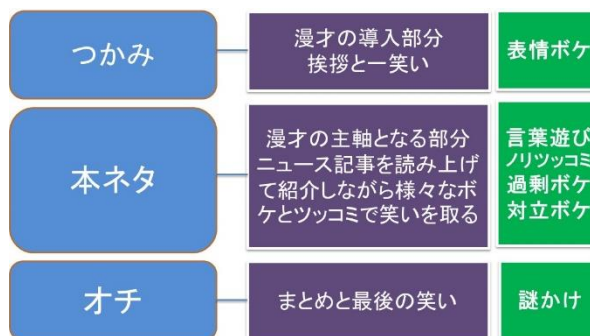
あいちゃん（左）とゴン太



小型漫才ロボット



漫才台本生成イメージ



漫才台本自動生成の仕組み

【別紙資料2】

漫才ロボットによる笑いの研究 (UMIN000035499)

研究の概要	
目的	漫才台本自動生成機能を持つ「漫才ロボット」が、がん患者を楽しませることが可能かを、ビデオ動画笑顔認識と自記式質問紙（アンケート）により調査します。
評価項目	主要評価項目：ビデオ動画を用いた笑顔認識による笑顔の回数と持続時間。 副次評価項目：自記式質問紙（WHO-5 精神的健康状態表を一部改変）による精神的健康状態。
選択基準	大阪国際がんセンター受診がん患者（がん種は問わない）
研究方法	同意を得られたがん患者に対し、「漫才ロボット」による即興漫才を鑑賞してもらいます。鑑賞中はビデオ動画を撮影し、鑑賞後に自記式質問紙に回答してもらいます。撮影したビデオ動画を用いて笑顔認識を行います。1回につき10分程度を同日に3回行い、連続しない2日で計6回の動画撮影を行います（被験者は異なる）。
予定参加者	30人

■目的：

医療や介護における心のケアには、「笑い」と「癒やし」が必要であると言われています。甲南大学 知能情報学部では医療や介護の現場で人に笑いを与えることを目的として、「漫才ロボット」の研究開発を行っています。漫才ロボット（あいちゃんとゴン太の2体）は、「お題」を与えると、人工知能によりインターネットから様々な知識を取得して漫才台本を数分で自動生成し、漫才を演じることが出来ます。本研究では、実際の医療現場において漫才ロボットが、身体的、精神的負担を強いられることも多いがん患者を笑わせることが可能かを評価するとともに、現状の漫才ロボットの課題を明らかにします。

■研究対象者：

大阪国際がんセンターで受診するがん患者が対象です。大阪国際がんセンターの診察券をお持ちの20歳以上の方で本人同意があれば、参加できます。

■方法：

侵襲を伴わない介入研究です。「漫才ロボット」による即興漫才を鑑賞し、鑑賞前から後までビデオ動画を撮影し、鑑賞後に自記式質問紙に回答します。がん患者5人程度からなるグループ毎に「お題」（テーマ）を出していただき、「漫才ロボット」が数分で漫才台本を自動生成して漫才を演じます（2～3分程度）。

■研究組織：

研究責任者：

大阪国際がんセンター がん対策センター 所長 宮代 勲

共同研究責任者：

甲南大学 知能情報学部 教授 灘本 明代

奈良先端科学技術大学院大学 研究推進機構 特任准教授 荒牧 英治